

「平成 29 年度 第 1 回 DRM セミナー」

社会資本整備審議会道路分科会（分科会長：石田東生 筑波大学特命教授）では、今後の道路政策の展開に関する建議が 8 月にまとめられる予定です。道路政策全般に係る建議は 5 年ぶりとのことであり、本年度第 1 回の DRM セミナーでは、石田分科会長に今回の建議について解説いただくことにいたしました。

また、静岡県では道路行政における地理空間情報の利活用や情報提供に鋭意取り組まれています。そこで、静岡県が目指す地理空間情報の利活用等についてご紹介いただきます。

■日時 平成 29 年 9 月 21 日 (木) 14:45～17:00（受付開始 14:15）

■場所 日本デジタル道路地図協会 6階 大会議室

■講演

(1) 社会システムのイノベーションをもたらす道路政策

日本大学特任教授・筑波大学名誉教授 石田 東生 氏

(2) 静岡県が目指す地理空間情報の利活用について

静岡県 交通基盤部 建設支援局 技術管理課 建設 ICT 推進班 杉本 直也 氏

■定員 80 名 ***定員に成り次第、締め切らせていただきます。**

■参加費 無料（事前申込み必要）

■会場案内 東京都千代田区平河町 1-3-13 ヒューリック平河町ビル 6F
DRM 会議室（地図は下記 URL をご参照ください。）
<http://www.drm.jp/company/address.html>

■主な内容

(1) 「社会システムのイノベーションをもたらす道路政策」

閉塞感のある日本の未来を切り開くことが求められている。人口と社会資本政策という大きな危機を概観したうえで、道路政策が先導的にイノベーションとマネジメントの考え方により挑戦することを主張する。そして、道路分科会建議「道路・交通イノベーション ～「みち」の機能向上・利活用の追求による豊かな暮らしの実現へ～」の目的と考えを解説し、併せてすでに始まっている道路政策の挑戦を紹介する。

(2) 「静岡県が目指す地理空間情報の利活用について」

自治体が保有するデータは「眠れる情報資産」と言われており、その中でも地理空間情報は、価値の高い有用なデータとして注目が集まっています。今回は、GISを活用した特車許可申請の効率化や、「i-Construction」の取り組みを交えながら、静岡県がデータの利活用で何を目指していくのかをご紹介します。

■参加申込み方法

参加をご希望の方は、**9月19日(火)までに**、①参加者氏名、②会社名、所属、役職、③電話番号、④電子メールアドレスを記載し、下記メールアドレスへ参加申込みメールをお送りください。

(参加者が複数の場合は、参加者全員の氏名等上記①～④の記載をお願いいたします)

担当 : yokoyama@drm.or.jp (研究開発部) 横山 宛

○お問い合わせ

(一般) 日本デジタル道路地図協会 (担当 横山)
TEL03-3222-7990
e-mail yokoyama@drm.or.jp
URL <http://www.drm.jp>